

## 大久保 白山神社の「田遊神事」が復活しました

1月3日、佐渡市大久保「白山神社」の「田遊神事（たあそびしんじ）」（新潟県指定無形民俗文化財）が6年ぶりに行われました。この行事は、令和2年に執り行ったのを最後に、コロナ禍や継承の問題などが重なり、中止状態が続いていました。しかし復活への思いが高まり、昨年12月に新しい自治会長（保存会会長）のもと復活が決定されました。

「田遊神事」は、五穀豊穡・無病息災を祈る予祝行事で、決められた次第に則り、一連の農耕仕草を模擬的に神前で行います。1.「三礼」2.「江ざらへ」3.「春かじ」4.「畦塗り」5.「農草を放す」6.「中ノ坊種蒔き」7.「苗とり」8.「起こし田」9.「苗くばり」10.「田植え」の順に、即興の演技とセリフを交えながら儀式は進行しました。

昨年は島内で行われた“田遊び”は下川茂の五所神社だけであったため、大久保白山神社の神事が復活したことは大変喜ばしいことでした。今回の田遊神事を振り返ると、畑野町史信仰編などかつて記述された内容から変化がありました。北鶴島には車田植の習俗が残っていますが、歴史家の故佐藤利夫氏はその植え方について「中心から右回りで外側に出るかたちは、白山神社系統の「お田植え神事」であると「佐渡伝統文化研究所年報」（佐渡市教育委員会 平成20年）で述べています。

佐渡島内に伝わる貴重な年中行事は、どういう過程で現在に至っているか意識しながら見守ると私たちの現在の立ち位置もみえてきそうです。



## 「佐渡人形芝居保存会定期公演」が行われました

11月2日、アミューズメント佐渡小ホールで、「佐渡人形芝居保存会定期公演」が開催されました。島内の人形座が日頃稽古している芝居をお互いに披露し、さらに研鑽を積むことを目的に開かれ、この日は7つの座が出演し、また親子教室で学んだ子どもたちや、佐渡市立高千中学校、佐渡市立真野中学校の出演もありました。当財団では、開催に合わせ、島内各座の所属人数、世代等を調査しました。著しい高齢化が読み取れる中、引き続き、継承支援に取り組んでいきます。



当日の配信映像はコチラ ▲

## 「佐渡人形芝居親子教室」を開催しました

本年も9月下旬から、子どもたちに人形芝居に親しんでもらい、継承につなげていく取り組み「佐渡人形芝居親子教室」を開催しました。新規参加者も回数を経るたびに人形を遣う楽しさや、道具の用い方の面白さ、基本動作を覚えて物語の一場面を完成させる魅力を知ってくれました。アンケートでは、「どんどんやるたびに覚えていき、楽しくなっていき、やったことのないことをどんどんできるようになるということは、経験になるのでもいいなと思いました。」という参加者の声がありました。

当財団では、次年度もこの取り組みを継続していく予定です。



教室での稽古の様子

## 佐渡の文化・芸能を支援する、賛助会員を募集しています!!

佐渡文化財団では、研究・調査、文化・芸能の普及活動等をご支援いただける賛助会員を募集しています。会費は個人1口2,000円、団体・法人1口5,000円です。何卒、ご支援をお願いいたします。



## 「第8回 佐渡民謡の祝祭」盛況 —— 来場者799名

11月30日、当財団も運営に参加する「第8回 佐渡民謡の祝祭」が開催され、会場のアミューズメント佐渡は、キッチンカー・民謡体験コーナーも設けられ、799名の観覧客で賑わいました。「佐渡島の金山」の世界文化遺産登録1周年となる本年は、「かける ～つなぎ、祝った佐渡の民謡、飛翔の年～」をテーマとし、佐渡民謡を中心とした構成となりました。華やかな合同ステージや地域民謡など多彩なステージが観客を楽しませていました。アンケートでは、「みんなハツラツとして楽しく踊っていてよかった」などの声が聴かれました。開催に合わせて行った調査では、担い手の高齢化や地方（じかた）の不足などの課題も見えてきました。当財団では、引き続き調査・支援の取り組みを行います。

### ■ 佐渡民謡合同チーム[結](ゆい)再結集！

8月の新潟県文化祭2025開幕イベントにて、佐渡民謡14団体・全38名で一つのステージを作り、好評を博した「佐渡民謡合同チーム[結](ゆい)」が、民謡の祝祭で再結集しました。暗い灯りの中で古調相川音頭から始まる凝った演出のステージで、佐渡民謡の奥深さが表現されました。

### ■ 「牛深ハイヤ節(佐渡バージョン)」の熱狂再び！

令和4年開催の民謡の祝祭の演目が、新たに2団体を加えた6団体で、演出をさらに磨き深みを加え、再び披露されました。佐渡おけさの原点と言われる「牛深ハイヤ節」のにぎやかな雰囲気華やかな演出で表現し、観客を引き込んでいました。



ステージの様子

楽器に触れて民謡を体験できるコーナーも賑わいを見せた



## 「民俗芸能 in としま2025」(東京都豊島区)に達者青年会が出演

10月25日、池袋のグローバルリングシアターを会場に、「民俗芸能 in としま2025」が開催され、当財団は、佐渡市からの委託事業として豆まき型鬼太鼓の「達者青年会」を派遣しました。観客は、渦上型と異なる型を興味深く観ていました。同会場で「佐渡島の金山」世界遺産登録1周年を記念してブースを出展し、金塊つかみ体験や民芸品の委託販売なども行いました。

また、イベント前日の24日には、文化交流として、豊島区内の小学校で学童保育の児童を対象に鬼太鼓の披露とワークショップを実施しました。

当財団では今後も、鬼太鼓の多様性を広く発信していきます。



## 「おけさ笠編込み講習会」を開催しました

12月13日、当財団主催で「おけさ笠編込み講習会」を開催しました。当日は島内だけでなく県外からの参加者もあり、盛況でした。講師を務めるおけさ笠保存会によると、参加者の中で保存会に入会したいとの声も聴かれたとのこと。当財団では次年度も講習会を開催する予定です。



### ■ 「佐渡芸能に触れてみる1時間」全11回の日程が終了しました

当財団の新事業である、佐渡の芸能をワンポイント解説と共に鑑賞して体験するイベント「佐渡芸能に触れてみる1時間」の本年度の全日程が終了しました。民謡・鬼太鼓・人形芝居・鷺流狂言・芸妓踊り・樽ばやしなど、佐渡の多様な民俗芸能を取り上げました。来場者アンケートでは、9割が参加前後で芸能に対して前向きな意識変化が見られ、自由回答からは来場者が様々な気付きを得ていることが読み取れました。また参加団体からは、やってよかったという声の一方で、伝えたいことを伝えるには時間が足りなかったとの声もありました。これらの声を踏まえ、来年度もこの事業を継続していく予定です。

佐渡文化財団の活動、和楽器貸出、通信販売など詳しくはコチラから

